

プログラム

■ 15:00 はじめに 下村 健一（令和メディア研究所主宰 / 白鷗大学 特任教授 / 元TBSキャスター）

あいさつ ・ 文部科学省（研究開発局 地震・防災研究課）
・ 平田 直（防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト 総括 / 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）



下村 健一

第1部

基調講演

■ 15:10 「危機対応の国際標準 ～組織をつなぎ社会を守る技術～」

永松 伸吾（関西大学 社会安全学部 教授 / 防災科研 災害過程研究部門 部門長）



永松 伸吾

第2部

グループセッション

■ 15:30 大規模集客施設における災害対応の最前線（出演順）

①「成田国際空港におけるCOVID-19対応の現状と課題（仮）」

松本 健二（大規模集客施設分科会 副会長 / 成田国際空港株式会社 空港運用部門 総合安全推進部 運用計画グループ マネージャー）
田中 一成（厚生労働省 成田空港検疫所 所長 / 医学博士）

②「関西国際空港における事業継続の取り組み」

千代 幹也（新関西国際空港株式会社 代表取締役社長）
升本 忠宏（関西エアポート株式会社 執行役員 副最高運用責任者 運用統括部長）



平田 直

③「災害発生時の人流データ可視化について」

柴山 和久（デ活 組織会員 / 株式会社 Agoop 代表取締役社長 兼 CEO）

第3部

全体セッション

■ 16:45 「大規模集客施設における防災力の向上を考える ～今年一年間の災害を振り返って～」

永松 伸吾（関西大学 社会安全学部 教授 / 防災科研 災害過程研究部門 部門長）
下村 健一（令和メディア研究所主宰 / 白鷗大学 特任教授 / 元TBSキャスター）
平田 直（防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト 総括 / 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）
および、第2部の出演者

むすび 下村 健一（令和メディア研究所主宰 / 白鷗大学 特任教授 / 元TBSキャスター）



首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト／データ活用協議会（デ活）

首都圏レジリエンス研究推進センターは、以下に掲げる3つのサブプロジェクトの推進、データ活用協議会（デ活）の運営を行ない、これらの有機的連携を通じて、官民一体の総合的な事業継続や災害対応、個人の防災行動等に資するデータの収集・整備をめざします。

サブプロ(a)

sub
a

首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上に資するデータ活用に向けた連携体制の構築

サブプロ[a]では、(1)被害の拡大を阻止し、都市機能の早期復旧・復興を実現する技術的課題抽出、データ活用策の検討をするとともに、(2)データ活用に向けた民間企業や関係機関等との連携を模索する（社会科学を中心とした防災研究）。16の研究機関・大学（25名）と1つの企業・団体（1名）が研究開発を実施。

統括：田村 圭子 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授
上石 勲 防災科研 首都圏レジリエンス研究推進センター 副センター長

サブプロ(b)

sub
b

官民連携による超高密度地震動観測データの収集・整備

サブプロ[b]では、(1)官民連携超高密度観測データの収集・整備と、(2)マルチデータインテグレーションシステムの検討を行う（理学を中心とした防災研究）。3つの研究機関・大学（29名）と1つの企業・団体（1名）が研究開発を実施。

統括：酒井 慎一 東京大学 地震研究所 / 情報学環・学際情報学府 教授
青井 真 防災科研 地震津波火山ネットワークセンター長・総括主任研究員

サブプロ(c)

sub
c

非構造部材を含む構造物の崩壊余裕度に関するデータ収集・整備

サブプロ[c]では、(1)非構造部材を含む崩壊余裕度に関するデータ収集・整備、(2)地盤・建物系のセンシングデータの収集・整備を行う（工学を中心とした防災研究）。12の研究機関・大学（31名）と3つの企業・団体（4名）が研究開発を実施。

統括：西谷 章 早稲田大学 理工学術院 総合研究所 特任研究教授
梶原 浩一 防災科研 地震減災実験研究部門（兵庫耐震工学研究センター）部門長・総括主任研究員

お問い合わせ

防災科研 首都圏レジリエンス研究推進センター
古屋・郡司・三條・小野 E-mail: info_for_r@bosai.go.jp

データ活用協議会ホームページ
<https://forr.bosai.go.jp/duc/>





デ活

データ利活用協議会
Data use and application council for resilience
シンポジウム2020

for R 首都圏
レジリエンス
プロジェクト
Tokyo Metropolitan Resilience Project

首都圏レジリエンスプロジェクトでは、首都圏のレジリエンス向上のために、データ利活用協議会の参画企業と研究者が、我が国において頻発する自然災害等においても「社会活動を途絶させることなく、いかに事業継続を実現するか」を命題として、活動を行って参りました。今回のシンポジウムでは、平時より多くの人々が利用・滞在し、複数の組織によって協働で運営されることが多く、危機事案発生時には避難施設や防災拠点施設となることが期待される「大規模集客施設」をテーマとします。

令和2年度 第3回デ活シンポジウム **ONLINE** 事前申込制 Zoomウェビナー参加で双方向のコミュニケーション

大規模集客施設における 防災力の向上を考える

今まさにCOVID-19(感染症)に関する水際対策の強化に努めている「成田国際空港」、平成30年(2018年)台風21号による被害を教訓にBCP策定を実施した「関西国際空港」の具体的な事例に加え、危機事案発生時の社会の動きを捉えた(株)Agoopによる人流データの活用事例を基に議論し、日常から緊急時までをつなぐ対応の重要性を考えます。

第1部 基調講演: 危機対応の国際標準 ~組織をつなぎ社会を守る技術~

第2部 グループセッション: 大規模集客施設における災害対応の最前線

第3部 全体セッション: 大規模集客施設における防災力の向上を考える ~今年一年間の災害を振り返って~

2020.12.18 **金** 15:00-17:10
(14:45より中継を開始します)

シンポジウム参加者 事前申込登録ページ
<https://nied-forrdac-regist.smartcore.jp/>



YouTube **LIVE** でも同時中継

<https://www.youtube.com/c/DEKATSU>



成田国際空港



関西国際空港



成田空港検疫所 / 唾液採取スペース



停電中の関空第1ターミナル



デ活

データ利活用協議会
Data use and application council for resilience
シンポジウム2020

災害時を想定した多元中継によるオンライン開催